

卓 話

「新宿シティーフマソンについて」

新宿シティーフマソン
実行委員会会長 川島 康男 氏

・開催復活に至るまでの経緯

新宿区では、区政40周年を記念して19年前に都庁周辺を走る区民健康マソンをスタートさせ、以後神宮外苑周回道路を使って区民健康マソンを実施してきました。平成14年2月27日には、これを拡大する形で国立競技場を使用した「第1回新宿シティーフマソン」が開催され、当日は雨にも関わらず4000名以上のランナーが集まりました。しかし第2回大会は、企業からの協賛金が集まらなかった為に大会運営費用がまかなえず、中止せざるを得ませんでした。その一年後に第2回大会の開催に至った理由は、復活を望む市民ランナーの根強い声があった事とともに、資金面に於いて、協賛金集め等のノウハウを持つ出版社が担当したという要因が大でした。この協賛金集めを申し出たのは、「週刊ベースボール」「週刊サッカーマガジン」「週刊プロレス」等の人気スポーツ雑誌を数多く発行する(株)ベースボール・マガジン社で、大会事務局も同社が引き受けてくれました。大口スポンサー4社を含めた20社程の協賛企業が集まり、宣伝効果の弱さを指摘された前回は教訓に、一般の人々にも広くアピールする形をとるようにしたのです。大口の4社を始めその他のスポンサーは、街中に張られた大会告知ポスターや、当日ランナーが身につけるナンバーカードに企業名を掲載し、又会場となる国立競技場内にスポンサーボードを設置し、電光掲示板にCMを流す等のPRを行いました。そして、かねてから懸案であったコースに関しても、四谷警察署・四谷交通安全協会等の絶大なご協力を得てコースの変更が可能になりました。

・新宿シティーフマソンの特徴

キーワード①協働事業

最も大きな特徴は、新宿区・新宿区陸協・民間企業との協働事業により運営されている点があげられます。支出の95%を参加費と協賛金で賄われており、新宿区の公費は5%以下になります。従来イベントでは、公費にて100%賄われておりましたが、新宿シティーフマソンは全国的にも稀有なケースと考えられ、今後益々行政の予算が削減されることを考えると、一歩進んだ運営スタイルといえます。

キーワード②地域密着型

また都会型のイベントでありながら、コース沿道に地元の

町会・商店街の方々のボランティア参加していただくことにより、地域に密着したイベントを目指しております。参加者は勿論の事、地元の方々に受け入れられるイベントにならない限り、継続的に開催していく事は困難だと考えております。

キーワード③顧客満足度

毎週全国各地でマソン大会(イベント)が開催されております。各地で開催されている大会の中から「新宿シティーフマソン」に参加し、又ハーフの部に申込された場合は参加費¥3,500-ですが、参加者が本当に満足しているかが鍵です。第2回大会から、大会終了後に無料のミニライブ(第2回サンブラザ中野さん・第3回中村あゆみさん・第4回川嶋あいさん)を開催しております。これには昨年25000名の観客が会場に足を運びました。又ファミリーで参加出来る、ひよこの部(42m195)を第3回大会から新設し大変好評を得ておりますし、10kmの制限時間延長(65分~75分)・小学生2km(高学年/低学年)に種目を分け、参加賞のトレッキング・リュック等顧客の声に耳を傾けております。

キーワード④大新宿祭り

イベントを盛り上げるには、ただ単にマソン大会に終わらせず「祭り」として位置づけ、周囲を巻き込むことが必要だと考えております。第2回大会より参加者全員に、豚汁サービス・無料マッサージ等を実施しておりますが、明治公園を活用して全国規模の祭りが出来るよう、新宿区観光協会等に働きかけております。

キーワード⑤「新宿シティーフマソン」のブランド化
国立競技場を走れることは、参加者にとって最大の魅力です。「新宿シティーフマソン」はその地の利を最大限に活かし、都会型のマソン大会のイメージを全面に出してこのイベントをブランドとして育てていく事が大切だと考えます。

・今後の課題

第1は、コースの問題です。都会でのマソン大会の為、参加者全員に満足いくコース設定が出来ておりません。この件に関しては、地元警察署等を含め粘り強く対応してまいります。第2は祭りとしての位置づけが薄いことです。本年度は新宿区観光協会を中心に、盛り上げて頂く予定です。

・総括

「第5回記念新宿シティーフマソン」は1月28日(日)に開催されます。2月11日(日)に開催される「青梅マソン」・2月18日(日)開催される「東京マソン」等の激戦中での開催ですが、多くの方々に支えられていることを忘れず「新宿シティーフマソン」らしさを全面にだして運営に携わっていきたいと考えております。

